

医療保健学部看護学科の授業評価結果に対する考察（平成 25 年度）

副学長・医療保健学部看護学科長
坂本 すが

1. 授業評価に関して

- 学生が自分自身の授業態度を評価する項目では例年通り極めて評価が高く、これからも学生の意欲や取り組みに応える授業を提供したいと思います。
- 授業内容については、学生がより興味・関心を持って授業に臨めるよう、今後もさらなる改善に取り組むたいと考えています。
- 初めて学ぶ専門科目は、予習をしないで授業に出席しその時間だけで理解することは困難です。予習の習慣が身に付くよう、大学生としての学びができるよう、基本的なスキルが身につくように支援する必要があると感じます。
- 学生は多様な入試方法によって入学してくることから、学力差がある集団であることを大前提として、一斉講義だけではなく習熟度に合わせた授業展開を今後も継続したいと考えます。
- 総合評価は全体的には 4.0 前後で平均以上でもあり、学生は総合的に授業には満足しているようでした。今後も学生の興味・関心に応えつつ、質を担保する授業を目指します。

2. 授業において工夫した点について

- ① パワーポイントの配布資料をそのまま配布することをやめ、授業概要と図表資料のみとしました。学生が授業を聞き取って自分で考え、理解して書きとめるように工夫しました。
- ② 実習病院の看護師に臨床現場における看護研究の取り組みについて講義をしてもらい、科目と自分の将来との関連をイメージできるようにしました。
- ③ 平成 25 年度から新しい実習枠組み、講義枠組みで授業を実施しました。
- ④ 学生が事前に取り組んだワークブックを活用して授業を進めることで、予習・復習の機会となるよう工夫しました。毎回の授業ではワークシートを活用して考えながら授業に参加できるようにしました。
- ⑤ アクティブラーニング（IBL）を取り入れ、グループ単位で自分たちの疑問や課題から調べ学習をして発表と言う形態を取り入れました。実習科目で実際に患者様を受け持ったときと同様の展開ができるよう工夫しました。
- ⑥ 既習科目との関連性の協調や、双方向授業を心がけました。
- ⑦ 毎回の授業でポイントになる部分のミニテストを実施し、学生の理解度の把握に努め、理解が不十分だった点については次回の授業で説明し、理解度を確認しながら授業を進めました。

3. 今後の授業について

- 復習中心から予習を促す工夫をし、講義内で主体的に思考できるようにしたいと考えます。
- 平成 25 年度の授業評価結果を生かし、学生の理解度を確認しながら分かりやすい授業を心がけたいと考えています。
- 学生が自ら取り組みやすい工夫を継続するとともに、知識を確実に習得し、実践につなげられるよう授業内容や方法を洗練させていきたいと思ひます。
- 今後も自分で調べ、自分で課題に取り組めるように、学び方を学ぶ授業を行いたいと思ひます。

4. 学生に対して

- どの科目も授業態度・出席率・取り組み姿勢は全て 4 点以上です。さらに確実な学びとするために、主体的に予習をし、授業時間内に質問をし、各科目で学ぶべき内容を確実に身につけて、活用できるよう知識を吸収して蓄えてください。
- 平成 23 年度から進級制度を、平成 24 年度から成績の補助資料として 5 ポイント法を、平成 26 年度から同様に fGPA を導入しました。順序性をもった確実な学修と、自分自身の成績状況を学期ごとに正確に把握するとともに、学修の結果を俯瞰することを目的としています。
それによって卒業までにやるべきことを計画的に取り組んでください。
- 教員は学生が将来において問題を抱えたとき、「へこたれない学生、へこたれても立ち上がる学生」を目指し教育を行っています。皆さんもその力を身につけるべく、仲間を思いやり、人間としての基本的な力を大学で身につけてください。
- 正規科目だけではなく、課外活動も専門職としての幅を広げてくれます。多様な場面で出会う人々と協力し、自らが秘めている能力を発見し、能力を活用できるような人になってください。